

## タイトル：サンゴ礁からの SOS

名前：佐藤衣吹 高校名：ノートルダム清心学園清心女子高等学校

私は今年の 10 月に学校の研修旅行で沖縄県を訪れた。滞在中には、森林実習を行ったり、潮間帯の調査をしたりと、普段の生活では経験できないようなフィールドワークをすることができた。その中でも、シュノーケリングは私にとっても深い印象を残した。シュノーケリングを通して、私の予想をはるかに上回る数多くの生き物に出会うことができ、沖縄の生物多様性に圧倒された。しかし今、サンゴ礁はある危機に直面している。今回は、サンゴ礁という生態系の重要性を再確認し、この自然を守るために今私達に何ができるかを考えていきたい。

### 写真 1：命のゆりかご、サンゴ礁

サンゴ礁を構成するサンゴは、暖かく浅い海に生息し、日本の海には約 400 種類のサンゴがいる。このうち、沖縄には約 200 種類が生息しており、日本国内で最も大きいサンゴ礁と言われている。このサンゴ礁が果たす役割はたくさんあるが、最も重要な役割の 1 つは、様々な生き物に棲み処を提供することである。このことから、サンゴ礁は「命のゆりかご」と呼ばれている。だから、サンゴ礁が失われてしまった場合、サンゴはもちろんのこと、そこに住む生き物に大きな影響を及ぼすことになる。そして、沖縄の生物多様性がなくなってしまうのだ。

撮影日時：2017 年 10 月 6 日 撮影場所：沖縄県島尻郡座間味村

### 写真 2：サンゴと共生する藻

サンゴ礁という大きな生態系保たれている背景には、サンゴの小さなパートナーの存在がある。その生き物は褐虫藻といい、赤血球とほぼ同じ大きさだが侮ることはできない。褐虫藻は、サンゴが放出する二酸化炭素やアンモニアを取り込み、光合成をして酸素や脂質、アミノ酸に変えている。そしてサンゴは、褐色藻が作った酸素やエネルギーを利用して成長する。つまり、サンゴと褐虫藻はお互いに、自分に不要な物を相手に必要な物にリサイクルしているのだ。だから、サンゴが元気であるためには、褐色藻も元気でないといけない。

撮影日時：2017 年 10 月 4 日 撮影場所：沖縄県国頭郡本部町

### 写真 3：白化現象からサンゴを救え！

しかし、近年褐色藻がサンゴの体内からいなくなり、透明なサンゴの体の白い骨が透けて見えることがある。これを白化現象という。白化したサンゴは、褐色藻の減少によってサンゴが十分な酸素やエネルギーを得ることができず、栄養失調状態になって死んでしまったり、成長が遅くなって元気な卵や精子が作れなくなったりする。この深刻な問題を引き起こしている原因は、実は人間なのである。生活や畜産からの排水などが、サンゴがいる海にそのまま流れ込み、海水中の栄養分が急激に増加する。すると、海藻類などが海底を覆うほどに広がり、サンゴの棲み処を奪ってしまうのだ。また、地球温暖化によって引き起こされた気候変動も、サンゴを激減させてしまう要因の 1 つだ。

撮影日時：2017 年 10 月 4 日 撮影場所：沖縄県国頭郡本部町

### 写真 4：サンゴ礁と私達

人間とサンゴ礁は、思っている以上に密接な関係がある。人間は、サンゴに集まっている魚やエビなどを食べたり、サンゴを観光資源として活用したりしている。また、時にはサンゴを癒しの場所や信仰の対象とすることもあり、祈りや祭りとも深く繋がっている。そんな大切なサンゴを守るために私達にできることはたくさんある。最も身近な所で言えば、節電やごみ減量などができる。これによって、地球温暖化を止める手助けをすることができる。サンゴと人間が共生し、今ある美しい自然を後世に伝えていくために、私達はできることからすぐに行動を起こさなければいけない。

撮影日時：2017 年 10 月 6 日 撮影場所：沖縄県島尻郡座間味村